

2022年10月24日(月)  
公益財団法人 マツダ財団

## 第8回マツダ財団サロンのご案内

日時：2022年12月3日(土) 10:00-12:00

場所：オンライン Microsoft Teams 使用

テーマ：「在留外国人支援と異文化交流」

タイムスケジュール：

10:00 参加者紹介

10:10～10:40 研究発表① 東北大学大学院歯学研究科 特任講師 中野 遼子 様  
一般社団法人イケダ大学 菱田 伊駒 様  
滴塾 第二学舎 山森 祐毅 様  
「交換留学生を対象としたインターンシップ実習の実践  
報告と考察」

10:40～11:10 研究発表② 鹿児島大学 法文学部 准教授 酒井 佑輔 様  
「住民参加型による外国人技能実習生の地域包摂に関する  
調査研究 ～鹿児島県大崎町を事例に～」

11:10～11:30 事例発表 NPO 法人ワン・フォー・オール 永井 勲 様  
「"Glocal Journey" Teenagers と Sixties : Generation  
Gap が生みだす多文化共生社会の新しい型」

11:30～12:00 意見交換

12:00 写真撮影、終了

(概要は次ページ参照)

(お問い合わせ) マツダ財団 井上 [Inoue.to@mazda.co.jp](mailto:Inoue.to@mazda.co.jp)

以上

第8回マツダ財団サロン 「在留外国人支援と異文化交流」発表者活動概要

名前（敬称略）	所属	概要
<p>中野 遼子 菱田 伊駒 山森 祐毅</p>	<p>東北大学 大学院歯学研 究科  一般社団法人 イケダ大学  滴塾 第二学 舎</p>	<p>「交換留学生を対象とした地域インターンシップ実習の実践報告と考察」</p> <p>2021年度春夏学期より、英語による交換留学プログラム（OUSSEP）学生向けに、一般社団法人イケダ大学、石橋商店街、吹田市旭通商店街の協力のもと、「インターンシップ実習コース2 社会福祉コース」を実施している。本研究は、「国際共修」（末松ら，2019）に着目し、「留学生と地域住民とのコミュニティ形成を促す国際共修の教育的効果とその成功要因」の解明を目的としている。本発表では、実践報告とともに、2つの商店街でのインターンシップを通して、①留学生と地域住民の交流が双方に与える教育的効果や、②留学生と地域住民とのコミュニティ形成を促進する成功要因の解明も試みる。</p>
(2019年度採択)		
<p>酒井 佑輔</p>	<p>鹿児島大学 法文学部</p>	<p>「住民参加型による外国人技能実習生の地域包摂に関する調査研究 ～鹿児島県大崎町を事例に～」</p> <p>研究代表者は、外国人労働者が加速度的に増加している地方地域（特に鹿児島）の国際化や多文化共生状況に関する調査にこれまで取り組んできた。本研究では、鹿児島県大崎町における外国人技能実習生の地域での包摂状況や課題の可視化並びにその解決を目的として、基礎自治体や地域コミュニティ、NPO、留学生含む本学学生、当事者である技能実習生等の地域のキーパーソンとの協働を通じた（1）参加型アクションリサーチ、（2）調査結果を踏まえた課題解決型連続ワークショップを開催する。</p>
(2019年度申請書から)		
<p>永井 勲</p>	<p>NPO法人 ワン・ フォー・オー ル</p>	<p>「"Glocal Journey" TeenagersとSixties：Generation Gapが生み出す多文化共生社会の新しい型」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当法人は人口減少が進む一方で、留学生が増えつつある地域において、遊休施設を再生し、そこに国際交流と言う新しい価値を付加して、若者を中心に国際学園都市化を図る本活動を2018年に3年計画で立ち上げ、貴財団の助成を頂きながら順調に成果を挙げて来た。</li> <li>・2年間の活動を経て、若手メンバーの成長には目を見張るものがあり、彼らから中長期的にGlocal（国際的な視点で課題を捉えた地域活動）で、多文化共生社会（国籍や文化の異なる人々が互いに違いを認め合い共に暮らす社会）の構築を目指す活動に昇華させようとの発案が出るに至った。</li> <li>・3期目の集大成として、この二つのキーワードを基に本活動を仕上げていく。</li> </ul>
(2020年度申請書から)		